

住友化学 i - 農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第99号 平成25年3月29日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 太田有香
発行責任者 南圭三郎

目次

執行役員就任のご挨拶	p. 1
農家さん訪問記 (83)	p. 2
住友化学アグログループ紹介 住化農業資材(株)	p. 6
食の安全性について考える (33)	p. 7
今月のお奨め農薬	p. 9
今月のご相談から	p. 11
農薬登録情報	p. 13
病害虫発生情報	p. 13
アンケート当選者発表	p. 14
編集後記	p. 14



キセキレイ (サシ科) フクジュソウ (キボウガ科)
富樫 信樹 画

執行役員就任のご挨拶

執行役員 アグロ事業部長 貫 和之

4月1日付で住友化学の執行役員に就任いたします貫でございます。平素より弊社アグログループの農業関連資材をご愛顧いただき誠に有難うございます。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

日本経済は昨年とは一転し、円安・株高と景気は少しずつですが回復基調にあります。一方、国内農業においては就農人口の減少による高齢化、耕作放棄地の増加、6次産業化など過去からの課題がまだまだ山積しています。

「日本の農業を元気にする」という目標に向け、弊社では地域の皆様のご協力をいただき、耕作放棄地、有休ハウスなどを利用して数年前から自社の実験農場「住化ファーム」を各地に設立しております。現在全国4箇所の農場で、弊社アグログループの技術や知恵を結集していちご、トマト、みつばなどの新しい生産技術の確立を目指し取り組んでおります。また、経団連の未来都市モデルプロジェクトに参画して「サンライズファーム」を設立し、先端技術を使った栽培管理を行うなど新たな取り組みも始めました。

生物多様性の時代と言われる昨今、農業は正に多くの生物と係わりをもつ多様性の分野であり、従前の農業形態に加えて新しい農業形態を創造・育成することも今後の農業のグローバル化には必要かと思えます。各ファームで蓄積した技術を生産者の皆様に少しでも多くご活用いただき、日本農業の活性化促進の支援になればと思っております。

弊社本来の事業である農薬や肥料についても、現場の課題を解決するための原体（有効成分）や製品の開発に今後とも注力いたします。今春も水稲用除草剤の「ゼータファイヤ」「ブルゼータ」及びべと病・疫病防除剤である「ベネセット」を上市し、対象雑草に適した製品或いは防除体系のラインアップの充実などきめ細かな製品を皆様にお届けしたいと思っております。

さて、東日本大震災とそれに伴った原発事故から2年が経過し、官民あげての復興・復旧活動も休むことなく行われています。微力ではありますが、弊社も支援活動を継続して参りますので、震災や原発事故に遭われた多くの皆様が元気になられ、各地域が一日も早く活気を取り戻すことを心よりお祈り申し上げます。



農家さん訪問記(83)

たまねぎ発祥の地でたまねぎを栽培



山口 八州男さん

「たまねぎ発祥の地」とはどういうことか分かりますか。現在の佐賀県のだまねぎの生産量は北海道に次いで全国2位になっていますが、佐賀県杵島郡白石町は佐賀県で初めて販売目的のだまねぎ栽培を始めた記念の場所なのです。

今回の農家さん訪問記はたまねぎの発祥の地、白石町で農業を営む山口八州男（やすお）さん（57歳）ご一家を訪問し、たまねぎ栽培を中心に農業経営のご苦労、将来の夢等についていろいろとお話を伺いました。

白石町は佐賀県の南西部、佐賀市中心部から約25kmにあり、東南部は有明海に面しています。中世（室町時代頃）から現代までの数多くの干拓事業によって造成された土地で、平らな土地が遠くまで続き、山並みは遠くにしか見えませんでした。（取材日2月12日）

後継者と一緒に

山口八州男さんは農業を継いで34年になります。それまでは大阪で会社勤めをしていましたが、昭和54年2月に結婚された直後に父親が急逝されたため、急遽4月に実家に戻り、23歳で農業を始めました。農業は季節に応じてやらなければならない作業が決まっていたため、4月には戻らざるを得なかったとのこと。奥様の佳世（かよ）さん（55歳）はそれまで全く農業に縁がありませんでした。

山口さんが農業を継いだ時の耕作面積は水稲が1.86ヘクタールで、水田裏作のだまねぎ栽培は60アール位でしたが、現在は水田が約5ヘクタール、転作畑でだまねぎ1.5ヘクタール、飼料作物1ヘクタール、裏作のだまねぎ栽培が約6.5ヘクタール（借地2ヘクタールを含む）の耕作に加えて、水田の受託管理（稲刈りおよび乾燥調製）を10ヘクタール行なっています。これだけの面積を山口さん夫婦と後継者の娘さん夫婦（宗 千春（そう ちはる）さん（31歳）、友紀美（ゆきみ）さん（29歳））の家族4人と期間労働の人で耕作しています。このほかに、友紀美さんは道の駅での販売用に赤たまねぎ、ゴーヤ、キャベツ、わさびな、サニーレタス、じゃがいも



コンバイン



わさびな



キャベツ

等を作っています。山口さんには子供さんが3人いますが、長男、次男は農業を継がず、娘さん夫婦が継ぐことになったそうです。娘婿の宗さんはこれまで全く農業経験がなく、「毎日が勉強です」と言われます。山口さんは地元（北区集落営農組合 構成員59名）の組合長をしていますが、それ以

外にもいろいろな世話役、協議会委員等をされています。

先人の努力でたまねぎ栽培を

白石町は干拓地のため、耕地の土質は粘質土壌（重粘度質埴土）で肥料の吸収力が強く、保水力にも富み、稲作に適した土壌ですが、慢性的な灌漑用水不足と水捌けの悪い湿田地帯のため、生産性の高い農業を営むのは難しい状況でした。当時、裏作ではれんこん、高畦での麦、蚕豆（ソラマメ）、菜種等を栽培していました。



昔の干拓地の外壁



発祥地の石碑(表)



石碑(裏)

状況が大きく変わったのは昭和 28 年

から始まった土地改良整備事業によってです。この結果、灌漑用水路の確保と乾田化が実現でき、白石町は米・麦、野菜、施設園芸などの農業好適地帯となりました。白石町のたまねぎ栽培は、昭和 37 年に北区青年部が中心になって行なったたまねぎの導入検討（試験栽培）に始まります。集団育苗をしたたまねぎ苗を 6 ヘクタールで栽培し、収穫に成功しました。水田裏作としてたまねぎの栽培が可能であることが実証されたのです。北区公民館には昭和 63 年に建立した「玉葱発祥之地」の碑があります。たまねぎ栽培の導入と農業機械の導入によって農業所得の増収と生産性の向上が可能になりました。現在の白石町のたまねぎの栽培面積は約 1500 ヘクタールで、農業後継者も多く、栽培面積の拡大や農業機械の購入などで活気のある地区になっています。農家戸数は少し減っていますが、規模拡大している農家が多いので、全体ではたまねぎの栽培面積は減っていないそうです。

たまねぎ栽培について

たまねぎは高畝で栽培します。たまねぎ苗の植え付けは 10 月下旬～2 月上旬に行います。収穫は早生種が 3 月下旬から 5 月中旬まで、中生種および晩生種は 5 月 20 日頃～6 月 10 日頃までに行います。早生種は収穫後すぐに出荷しますが、中生種および晩生種は収穫後倉庫に貯蔵し、乾燥させてから梅雨明けに出荷します。たまねぎの収穫後には稲の田植えが控えているため、一番忙しい時期です。山口さんは忙しい農繁期には期間労働で 4 人位を延べ 300 日雇い、たまねぎ苗の植付け（11 月～2 月中旬）、たまねぎの収穫と稲の田植え（5 月～6 月）、貯蔵乾燥させた中晩生たまねぎの出荷調製（根の切除と葉の切り揃え（7～8 月））を行なっています。期間労働で働く人は知り合いが主ですが、男手は昨年からは求人雑誌での募集もしています。以前中国の農業研修生を頼んだことがあります。言葉の壁が大きかったため現



一面のたまねぎ畑

在は止めているそうです。

現在、栽培するたまねぎの品種数は全部で10品種位、うち早生系が5品種位です。品種特性(収量、収穫期、形、耐病性等)の分かった品種を組み合わせているので、特性が十分に掘めていない品種を栽培する時は初めから大面積で栽培するのではなく、小面積から始めて徐々に面積を増やしていきます。

佐賀県ホームページに掲載されているJA佐賀の事例(下表)を参考に、たまねぎ栽培の採算性について伺いました。山口さんの場合もほぼ同じくらいとのことでした。

[先進農家での10アール当りの採算性] (佐賀県ホームページ内「タマネギ栽培マニュアル」より)

収量 Kg/10アール	秀品率 %	単価 円/Kg	販売額 円/10アール	経営費 円/10アール
5,800	85	78	384,000	153,000



たまねぎ栽培用の農機具

これだけの面積のたまねぎを耕作するには機械化が不可欠です。山口さんの機械倉庫を見せていただきましたが、水稲用の農機具(コンバイン、乾燥機など)以外にたまねぎ栽培用のトラクター、苗移植機など多くの農機具を所有しています。たまねぎ栽培用の農機具は購入者が限定されるため、割高な価格になっているそうです。例えば、たまねぎの移植機は180万円、これには種機用トレーなどの備品を含めた一式では300万円位になるそうです。以前は1台の農機具を3戸で共同購入し、持ち回りで使用していましたが、栽培面積の拡大に伴って農機具の使用頻度が増え、は種機以外の農機具は各農家がそれぞれ所有するようになったそうです。は種作業だけは現在も共同で行なっています。従来農機具購入は国の補助金等を利用していましたが、最近補助金が減額されたため、中古の農機具で我慢せざるを得ないそうです。

これだけの面積のたまねぎを耕作するには機械化が不可欠です。山口さんの機械倉庫を見せていただきましたが、水稲用の農機具(コンバイン、乾燥機など)以外にたまねぎ栽培用のトラクター、苗移植機など多くの農機具を所有しています。たまねぎ栽培用の農機具は購入者が限定されるため、割高な価格になっているそうです。例えば、たまねぎの移植機は180万円、これには種機用トレーなどの備品を含めた一式では300万円



移植機

安全な商品を届けるのが第一

山口さんが農産物を作る心構えは安全なものを消費者に届けることです。

山口さんはエコファーマーの認定を受けています。肥料、農薬の使用回数を通常の使用回数の半分に減らして栽培する特別栽培でたまねぎを1.5ヘクタールほど栽培しています。

特別栽培で最も重要なのは土作りです。山口さんは地元の有機質ぼかし肥料を使用しています。以前は堆肥を大量(10アール当りに数トン)に施肥していましたが、ボカシ肥料の利用で10アール当り200~300kgに大幅に減らす事ができ、作業が楽になっているとのこと。

雑草管理は畦に土をかぶせる物理的除草法を行なっています。問題病害虫はスリップス類、ボトリチス葉枯症とべと病です。べと病は最近増加しているそうです。

山口さんは農薬の使用量を必要最小限に抑えています。消費者の「虫が一匹もない野菜」という要望については、「家庭菜園では可能でも、大面積の特別栽培では無理なことを理解して欲しい」とのことでした。

今後の課題と夢

山口さんは「後継者が決まる以前は何のために規模拡大するのか動機付けが難しかったが、現在は宗さん夫婦というよい後継者ができ、今後の課題は法人化と経営規模拡大です。」と話してくれました。山口さんは現在は個人農家ですが、所属する営農組合が法人化する時には山口さんも法人農家になることを考えています。法人農家になり、経営規模を拡大し、地域の農業を引っ張っていく存在になりたいとのことです。一方、山口さんは後継者に早く育ってもらうためには、独り立ちさせることが必要なので、早く引退したいとも言われます。宗さんの将来の夢も山口さんと同じ規模拡大です。

最後に趣味・楽しみについて伺いました。山口さんは奥様と一緒に年2回位の旅行が楽しみとのことです。絵を描くのも大好きだそうです。現在は休止中です。宗さんは晩酌が楽しみとのことです。



ご自宅前で

今回の農家訪問ではあいにく奥様が旅行中でお話を伺えませんでした。山口さんのほのぼのとした人柄と宗さん夫婦の若々しく、農業に情熱をもっている姿にふれ、一層のご活躍を期待しました。さすが「がばい」の地です。

今回の取材は西九州農材販売㈱の山本和久社長のご協力で見ることができました。ご協力どうもありがとうございました。

(鳥取)

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

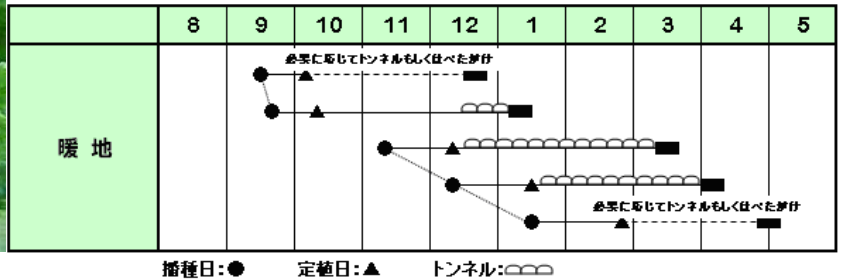
住化農業資材株式会社

結球安定性抜群！一般病害に比較的強い暖地・冬どり作型に適するレタス

モデナ

近年、秋のゲリラ豪雨の影響で定植後のレタスが根傷みを起こし生育不良になったり、病気が多発するなど、冬どりレタスは栽培が難しくなっていると言えます。住化農業資材株式会社では、このような異常気象やそれに起因する一般病害に対して強い品種の開発に力を注いでいます。

今回紹介する「モデナ」は根が強いいため比較的水はけの悪い圃場においても根傷みににくく、また、灰色かび病をはじめとする一般病害に比較的強い品種として西南暖地の主要産地で好評の品種です。



過湿圃場でのモデナ栽培結果

<p>過湿による根傷み、下葉の枯死またはとろけが多発。球形の悪化や地際部からの病害(灰色かび病)が発生。ひどいものは球の尻部分にも病気が見られる。</p>	<p>過湿による根傷み、下葉のとろけが少ない。結球性が安定し形状、球肥大が良い。地際部からの病害の発生が少ない。</p>
---	--

従来品種 ←

モデナ →

モデナは健全に生育

住化農業資材株式会社 <http://www.sumika-agrotech.com/>
 〒541-0043
 大阪府中央区高麗橋4-6-17
 Tel. 06-6204-1877 Fax. 06-6204-0166

[目次へ戻る](#)

食の安全性について考える(33)

②1 農薬の作用メカニズム（殺菌剤の作用）

農薬を取り扱うにあたり、大きな3つの安全性が問われることになる。

第1は、農薬の取扱者すなわち農薬の製造、散布作業などに従事しているものが被害にあう場合。第2に、農薬が作物に残留し、それが摂取されて人体に影響を及ぼす場合。第3に、農薬が自然環境や生態系に及ぼす影響などについてである。特に、近年は環境運動の高まりとともに農薬への関心も一段と強まっている。それらのことを踏まえ、農薬の安全性について、わかりやすく解説した農薬工業会編「なるほど！なっとく！農薬Q&A」をしばらく掲載したい。(古津)



挿絵：加藤さん

Q：殺菌剤はなぜ効くのですか。

A：植物の病気の多くは糸状菌（かび）や細菌（バクテリア）に感染して発病します。これらの病害を防除する薬剤が殺菌剤です。今日使われている殺菌剤は、病原菌に対して直接の殺菌性や静菌性を示す薬剤、病原菌の感染に関与する機構を特異的に阻害する薬剤、直接病原菌へは作用せず、作物に抵抗力を付与（誘導）させる薬剤に大別することができます。

① 病原菌に対し直接殺菌性や静菌性を示す

〔菌体成分生合成系の阻害〕

生物の重要な生体成分には核酸、アミノ酸、タンパク質、脂質、ステロールおよび細胞壁成分である多糖類などがあり、これらの生合成が阻害されると、植物病原菌は正常な成長・増殖・形態形成および機能発現などを行うことができず、感染・発病・増殖・伝播が阻止されます。

DNAやRNAといった核酸の合成を阻害する薬剤があります。核酸はすべての生物が持つ生体構成成分であって、遺伝子自体が核酸であると同時に、その遺伝情報に基づいてタンパク質の生合成を行うための指令を与える機能を持っています。核酸の合成を妨げる薬剤は、激しく増殖する病原菌の細胞分裂を抑制します。

タンパク質は、病原微生物にとっても生体の構成成分や体内の酵素の材料として重要です。タンパク質はアミノ酸が一定の順序でつながったものですが、アミノ酸の組成と順序を決定する情報の伝達を妨げて、タンパク質の生合成を阻害するタイプの殺菌剤があります。これが1961年（昭和36年）に抗いもち剤として実用化された、農業用抗生物質、ブラストサイジンSやそれに続いたカスガマイシンです。また、アミノ酸の一種のメチオニンの生合成を阻害する薬剤も開発されています。

細菌や糸状菌の細胞の細胞膜は、リン脂質やエルゴステロールから成る二重の膜で、これに酵素などが組み込まれています。このリン脂質やエルゴステロールの合成を妨げて、細胞膜を変性させてしまう作用をもった殺菌剤があります。近年、エルゴステロール生合成を阻害する薬剤（Ergosterol Biosynthesis Inhibitor：EBI剤）は数多く開発されています。

細胞膜の外側にはさらに細胞壁があります。細胞壁はセルロース、キチン、ペプチドグルカン等を主な成分にしており、一定の硬さを保ち細胞の形を維持しています。これら細胞壁成分の合成が阻害されると、細胞は破裂し死んでしまいます。このような効果をもつ薬剤で最も有名なもの

に医薬品のペニシリンがありますが、同様の作用をもった抗生物質が農業分野でも使われています。

[呼吸阻害 (エネルギー代謝阻害)]

呼吸は、狭義には酸素を取り込み炭酸ガスを吐き出す営みを示します。取り込んだ酸素は複雑な菌体内の仕組みで最終的には菌が摂取した糖などを酸化してエネルギーを得る過程、即ちエネルギー代謝全体を広義には呼吸と呼んでいます。このエネルギー獲得の過程を妨げ、殺菌作用を発揮する薬剤もあります。これらの薬剤は、病原菌の糖代謝や電子伝達系などの呼吸系を阻害します。

[増殖阻害 (有糸分裂阻害)]

細胞分裂は、生物の成長や世代の交代にかかわるあらゆる場面で必要な現象です。細胞分裂は、染色体のほぐれ、DNAの複製に引き続き、染色体の有糸分裂、細胞隔壁の形成などの一連の過程が進行することによって完成します。ベンゾイミダゾール系の薬剤は、 β -チューブリンに結合して微小管の形成を妨げることで細胞分裂時紡錘糸の形成を抑制し、有糸分裂を阻害します。

② 病原菌の感染に関与する機構を特異的に阻害

[メラニン生合成阻害]

病原菌のなかには、植物に付着して植物体内に侵入するとき、いもち病菌のように植物体表面に形成した付着器から直接体内に細い菌糸を伸ばすものがあります。ところが、病原菌自身のメラニン色素の生合成が抑えられると菌糸は植物体内に侵入できません。したがって、メラニン色素生合成阻害剤には直接の殺菌作用はありませんが、発病を抑えることができます。メラニン色素生合成阻害剤は2つに大別でき、還元酵素阻害型 (MBI-R) と脱水酵素阻害型 (MBI-D) があります。



挿絵：加藤さん

③ 作物に抵抗力を誘導 (付与)

[作物における病害抵抗性誘導など]

最近注目されているのは、病害抵抗性付与剤で、病原微生物を直接作用するのではなく、植物自身の抵抗力を高めて病気にかかりにくくしたり、植物の表面に普通に見られる無害な微生物の力を借りて、病原微生物の居場所を奪ったりして病気を抑える作用をもっています。

参考資料

- * 日本植物防疫協会『農薬概説』
- * 松中昭一『農薬のおはなし』2000、日本規格協会
- * 日本農薬学会『農薬とは何か』1996、日本植物防疫協会
- * 上杉康彦『作物の病気を防ぐ薬の話』1995、日本植物防疫協会
- * 石井英夫「農薬が誘導する植物の全身抵抗性」今月の農業 (1999-6)

(2009年9月)



[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

斑点米カメムシの防除に

ダントツ剤（水溶剤、粉剤DL、H粉剤DL、フロアブル）

米の検査基準（着色粒の検査等級基準）では、斑点米等の着色粒の混入が許容限度を超えると米の等級が低くなり、販売価格も下がるため、生産農家の所得に大きく影響します。例えば、着色粒が1000粒に2粒以上入っていると1等米から2等米に落ちます。

斑点米カメムシで特に問題となるカメムシの種類はアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメなどのカスミカメムシ類とクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシなど十数種類です。発生する斑点米カメムシの種類は地域により違いがありますが、カスミカメムシ類は全国的に発生していま



斑点米



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ

す。

カスミカメムシ類は卵で越冬するため、成虫で越冬する大型カメムシ類に比べて越冬生存率が高く、また年間世代数が多く（3～5回）増殖率が高いため、斑点米カメムシの中での比率が高まり、防除の重要性が増しています。カスミカメムシ類は一般に小さく（アカヒゲホソミドリカスミカメは体長が5～6mm）、水田の中ではよほど注意してみないと見つかりにくいいため、稲の生育ステージに基づく適期防除が重要です。

斑点米カメムシ類は通常雑草地や牧草地でイネ科植物を餌に生活していますが、水稻の出穂～登熟期に水田にも餌を求めて移動してきます。カスミカメムシ類やホソハリカメムシなどは飛翔能力が高く、遠くからでも移動してきます。

斑点米はカメムシ類が登熟期の籾に口針を突き刺し、吸汁加害することによって、加害部が褐色斑点になるため発生します。斑点米には頂部加害型、側部加害型、無差別加害型の3つの型があります。カスミカメムシ類は口針が弱いため、内外穎の頂部、組織の柔らかい「ふ先」、内外穎の縫合部の隙間から口針を挿入して吸汁するため、頂部加害型、側部加害型になります。大型のカメムシ類は口器が強く、内外穎のどの部分からも穎を貫通して吸汁できるため、無差別加害型の斑点米になります。

次のような状況では斑点米の被害が出やすくなります。

- ・夏期の気温が高い場合
- ・周辺に牧草地や雑草地などの繁殖源がある場合
- ・イネの出穂や登熟が遅延した場合
- ・割れ籾が多発した場合
- ・水田雑草が多発した場合

【斑点米カメムシの耕種的防除】として、次の4つの対策が挙げられます。

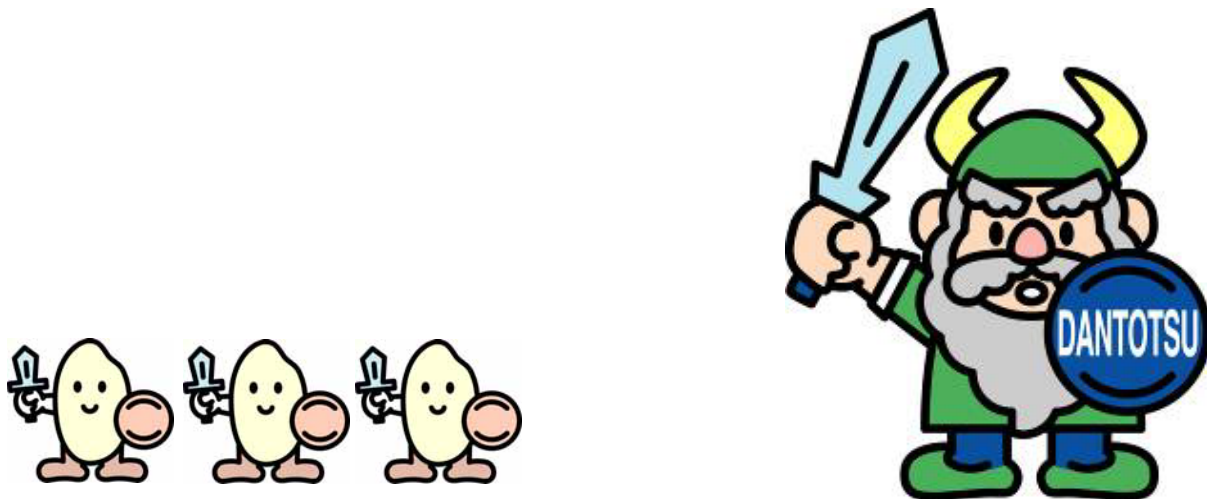
- ① 畦畔の草刈りをイネの出穂の10～15日前（2週間前）までに行いません。それ以後の草刈りは斑点米カメムシを水田内に追い込むことになるため控えます。
- ② 休耕田のイネ科雑草（エノコログサ、ヒエ、メヒシバ等）がカメムシ類の発生源となっている場合が多いので、水田周囲の休耕田の雑草管理を徹底します。
- ③ アカスジカスミカメの第1世代幼虫の発生盛期7月中～下旬に、水田侵入前の繁殖地（牧草地、雑草地、畦畔などのイネ科植物）の草刈りを実施します。繁殖地での第1世代幼虫の密度を低下させ、水田における発生密度および斑点米被害を抑制します。

【斑点米カメムシの薬剤防除】にはダントツ剤（水溶剤、粉剤DL、H粉剤DL、フロアブル）がお奨めです。ダントツ剤の有効成分のクロチアニジンは植物への浸透移行性にすぐれ、経口、経皮的に昆虫体内に取り込まれて殺虫効果を発揮します。特に吸汁性害虫に高い防除効果を示します。また、致死しない場合でも、摂食・吸汁・産卵などの行動を制御する作用があります。

- ・薬剤防除は出穂期の7～10日後（乳熟期）を基本に、その後も発生がある場合は7～10日おきに追加防除します。
- ・広域一斉防除で防除効率が高くなります。ダントツフロアブルは無人ヘリコプター散布、空中散布用にも使用できる製品です。
- ・防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合には、畦畔を含めて防除します。
- ・出穂前の散布は出穂後侵入する斑点米カメムシ類に対する防除効果は期待できません。

（鳥取）

[目次へ戻る](#)



今月のご相談から

水稻除草剤「ヨシキタ剤」について 教えてください！

Q 1. 初期一発処理除草剤「ヨシキタ剤」を使ってみたいのですが、その特長と上手な使い方を教えてください。

A 1. ヨシキタ剤の主な特長と上手な使い方をご紹介します。

特長

① 3剤型が揃っています。

田植同時散布が可能な1キロ粒剤、フロアブル剤と、畦から投げ込むだけのカンタン散布が可能なジャンボ剤が揃っていますので便利です。

② ノビエや一年生雑草はもちろん、多年生雑草や近年問題となっているホタルイ、コナギなどのSU抵抗性雑草*にも高い効果を示します。それは、イマズスルフロン・プロモブチド・ペントキサゾンという3つの有効成分が合理的に配合されているからです。

* SU抵抗性雑草とはスルホニルウレア系除草剤に抵抗性をもつ雑草のことです。

③ 1キロ粒剤、フロアブル剤は省力的な田植同時散布が可能です。

もちろん「移植直後～ノビエ 1.5葉期まで」の湛水散布も可能です。

④ 40～50日程度の長い効き目が期待出来る初期一発処理除草剤です。効果が長く続くので、遅れて発生する雑草もしっかり抑えます。



ヨシキタ1キロ粒剤

上手な使い方

① 1キロ粒剤、フロアブル剤の場合は、省力的な「田植同時散布」がお奨めです。

田植同時散布を行う場合は、「田面の均平化、ひたひたの浅水条件、移植深度の適正化、移植後の速やかな入水（水深3～5cmまで）」を心がけ、極端に土のもどりが悪い水田では使用しないで下さい。なお、移植後に処理する場合には、「移植直後～ノビエ 1.5葉期まで」に湛水散布してください。

② ジャンボ剤の散布に当たっては、水深を5～6cmとし、藻類や浮草の発生前に10アール当り10個の割合で均等に投げ入れて下さい。パックは破らずにそのまま投げ入れてください。また、パックは水溶性フィルムで出来ていて、濡れた手で触ると破れる恐れがありますので、「濡れた手」では扱わないでください。



ヨシキタフロアブル

Q 2. ヨシキタ1キロ粒剤を田植同時処理しました。ところが、2週間くらい経った頃からコウキヤガラが発生してきています。この対策としてヨシキタフロアブルを散布したいのですが、問題は無いでしょうか？

A 2. 水稻除草剤の場合、水管理や代かきによる田面の不均平等の要因により、効果が振れることがあります。発生してきたコウキヤガラ対策としては、ヨシキタフロアブルではなく、

「**バサグラン液剤**」をお奨めします。バサグラン液剤は、コウキヤガラ
の「**増殖期**」に散布すると有効です。



バサグラン液剤

Q 3. ヨシキタジャンボを処理しましたが、水面に藻やゴミ？があつて十分
拡散していないようです。どうしたら良いのでしょうか？

A 3. ジャンボ剤は藻や浮草が発生している水田では、拡散が不十分となり
効果が劣る可能性がありますので、本来このような条件の水田では使
用しないようにして下さい。従つて、余りに多発生な場合は専用剤で
防除してから散布する必要があります。

ご心配なら、これらの藻類は降雨後に沈下することが多いので、落ち
着いた段階でノビエ 3 葉期まで使える「メガゼータ 1 キロ粒剤又はメ
ガゼータフロアブル」などを移植後 30 日までにご使用ください。



メガゼータ1キロ粒剤



メガゼータフロアブル



ヨシキタジャンボ

Q 4. ヨシキタジャンボは風や雨があつても散布出来ますか？

A 4. 本剤は散布後、袋が水で溶けて薬剤が水面を拡散します。通常の風（秒速 3～4 m 以下）
であれば問題ありませんが、**強風雨下では薬剤の拡散が偏りますので散布は避けて下さい。**
また、雨が降っているとパックが濡れて破れたり、薬剤が拡散する前に沈む可能性があり
ますので、降雨時の本剤の使用は避けて下さい。

Q 5. ①ヨシキタフロアブルはクログワイに効きますか？

②本剤は 20～30 アール程度の水田なら、畦畔からの手振り散布で大丈夫ですか？

A 5. ①本剤はクログワイにも有効ですが、使用適期は「**発生始期**」となっています。後から発
生してきた場合は、バサグラン粒剤またはバサグラン液剤を「発生盛期～発生揃期（草
丈 15cm 以下）」に処理して下さい。

②水田の幅が 30m 以下であれば、畦畔からの**手振り散布**で大丈夫です（手振り散布でも畦
畔から 5～6m 飛び、そこから薬剤が拡散します）。

水田の幅が 30m 以上の場合は、市販のフロアブル専用散布器（例えばヤマト農磁機の「**フ
ロちゃん**」）を利用すれば 10m 程度飛びますので、水田内に入らずに畦畔から楽に散布
することができます。フロちゃんのアドレスは以下の通りです。

http://www.yamatonojji.co.jp/products/nouyaku/furo_chan/index.html

（小川）

「今月のご相談から」は、都合によりしばらく休載します。ご了承ください。
（詳しくは、15 ページの「編集後記」(小川)をご覧ください)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

2月27日、3月13日の主な適用拡大の内容です

詳細はここをクリックしてください。

<http://www.i-nouryoku.com/prod/tekiyou/2013.html>**適用拡大****殺虫剤**

薬剤名及び変更日	適用作物	変更項目	変更前	変更後
スミチオン乳剤 (2013/2/27)	いね科牧草	害虫追加	ヨコバイ類・アブラムシ類 ウンカ類・ウリハムシモドキ ゾウムシ類・ムギハダニ	ヨコバイ類・アブラムシ類 ウンカ類・ウリハムシモドキ ゾウムシ類・ムギハダニ アワヨトウ
エスマルクDF (2013/3/13)		作物追加		わた 追加
ダントツ水溶剤 (2013/3/13)		作物追加		わた 追加
ディアナSC (2013/3/13)		作物追加		わた 追加

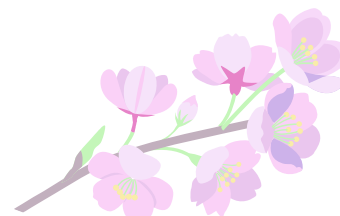
殺菌剤

スターナ水和剤 (2013/3/13)		作物追加		きく 追加
------------------------	--	------	--	--------------

(山脇)

[目次へ戻る](#)**病害虫発生情報**

3 / 7 ~ 13 (JPP発表による)

**愛媛県**

* 3月4日 特殊報 ゆず / ヤノネカイガラムシ

当社登録薬剤:

かんきつ:ジメトエート乳剤

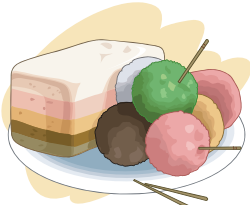
詳細は:<http://www.pref.ehime.jp/h35118/2406/byocyubojo/index.html>**宮崎県**

* 3月7日 特殊報 ヒサカキ / チャトゲコナジラミ

当社登録薬剤:該当なし

詳細は:<http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki/>

適用内容を確認して、地域に適した薬剤をお使いください。



(小川)

[目次へ戻る](#)

アンケート当選者発表

アンケートにお答え戴いた i-農力会員の皆様、どうもありがとうございました。お寄せいただいたご意見を反映し、本誌を充実させていきますので、どうぞご期待ください。また、厳正な抽選の結果、以下の方が当選されましたので発表します。おめでとうございます。

たくさんのご応募
ありがとうございました！！

「りんご」当選の皆様（会員番号）

AH0360、AH0510、AH0522、AH0664、N101140、NA0472、NA0479、NA0495、NA1118、NA1211、NA1368、NA1547、NA1690、NA1721、NA1721、NA1889、NA2555、NA2705、NA2864、NA2893、NA3066、NA3144、NA3188、NA3214、NA3285、NA3319、NA3560、NA3727、NA3733、NA3737
(以上、30名様)

「デコボン」当選の皆様（会員番号）

AH0419、AH0617、AH0690、N100800、NA0084、NA0407、NA0596、NA0790、NA0959、NA0997、NA1209、NA1415、NA1576、NA1601、NA1601、NA1714、NA1949、NA2261、NA2574、NA2806、NA2809、NA2924、NA2956、NA3102、NA3111、NA3380、NA3445、NA3663、NA3742、NAS780129
(以上、30名様)



[目次へ戻る](#)

～ 編集後記 ～



農家訪問記の取材で佐賀県杵島郡白石町を訪ねました。白石町ではどこまでも続く広い農地に驚いたのですが、白石町が広い干拓地と干潟で知られる町ということは帰京後に知りました。

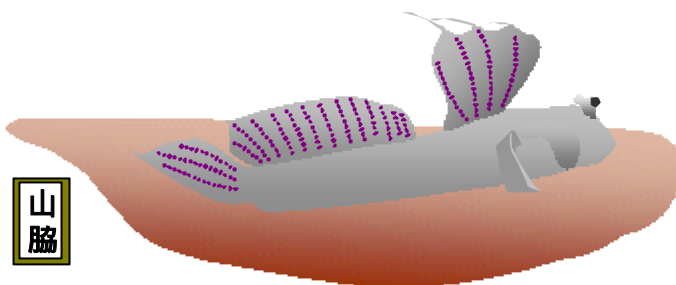
干拓は埋め立て（山を崩して海を埋める）と違って、遠浅の干潟を堤防で海から締め切り、海水を排水して作ります。干潟ができるには自然条件（土砂や有機物を運び出す河川がある、河口の水の動きが緩やかで堆積しやすい、遠浅であるなど）がないとできません。

干拓事業では海外ではオランダ、日本国内では京都府の巨椋池、秋田県の八郎潟が知られていますが、有明海の干拓事業は室町時代から始まり、大名、或いは村共同、個人の事業として行なわれたそうです。白石町の地元誌の「(白石町)北区の捌図」(干拓地を捌という)を見ると、うろこ状に干拓地が拡大していった様子がよく分かります。

現在の白川町を見ると先人の遺産（開拓地）が最大に活かされていると感じました。

◇ ◇ ◇ ◇

さて、話は変わりますが、よい農産物を作るには健全な種子／苗、土壌、栽培技術に加えて気象が重要です。

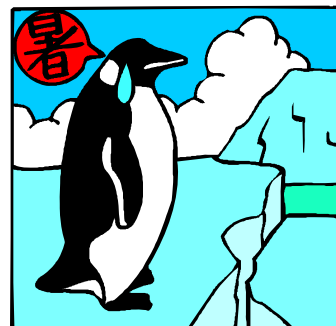


気象庁では、異常気象を「30年に1回程度起こる現象」と定義しています。

「エルニーニョ現象」は東太平洋の赤道付近から南米ペルー沖の海水温が高くなる現象で、日本は冷夏・暖冬の気候になると言われています。また、「ラニーニャ現象」は逆に東太平洋の赤道付近の海水温が低くなる現象で、日本の気象への影響は猛暑・厳冬と言われています。

エルニーニョ／ラニーニャ現象は数年に一度発生し、半年から1年半程度続く現象で、過去60年間のエルニーニョ／ラニーニャ現象の発生記録を見ると、半分以上の期間はどちらかの現象下にあったようです。

エルニーニョ／ラニーニャ現象がこれだけ高い頻度で発生することを考えると、地球温暖化との関係は不明ですが、日本の気象への各種の影響も異常気象というレベルではなく、通常気象の振れの範囲と考えて、常日頃の備えを固めておく必要があるように思います。



(鳥取)

私は千葉県流山市に住んでいますが、2年ほど前からNPO法人「流山史跡ガイドの会」に所属していて、市内外から訪ねて来られるお客様をご案内しています。流山駅周辺に主な見所が集中していますので、半日あればご案内出来ます。市ではこれを「半旅！」と称して、気軽にどうぞ…というキャンペーンをしています。流山を一言で言うと「都心から最も近い緑溢れる街、みりんと一茶と新選組ゆかりの地」ということになります。これから江戸川の堤防一面に菜の花が咲き、素晴らしい季節を迎えます。ぜひご家族、ご友人と一緒に、カワイイ流鉄の電車に乗ってお出かけ下さい。待ってま〜す！

さて、私がお客様相談室に勤務して4年8ヶ月になりますが、今回の「住友化学 i - 農力だより NO. 99」が最後の仕事になります。長い間ご愛読有難うございました。担当していた記事は



江戸川堤の菜の花が咲きました

「今月のご相談から」と「病害虫発生情報」でした。先般実施したアンケートの中でも、皆さまから「参考になった！」とのご意見を賜り、大変光栄に思っています。次回については記念すべき第100号となります。4月号からは新しい編集メンバーによって、さらにパワーアップした内容になることでしょうか。私も皆さまとともに、今後は一読者として見守っていきたいと思っています。

(小川)

次月号の - 農力だよりは
4月26日(金)の発行予定です。
どうぞお楽しみに！！

[目次へ戻る](#)